

# 令和3年度 事業報告

## 令和3年度 事業報告書

令和3年度は、前年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックもワクチン接種により徐々に収束するものと思われたが、鎮静拡大を繰り返し次々と変異する新株の出現で昨年末から今年にかけてオミクロン株の感染が急拡大となり多くの自治体からの要請を受けて政府によるまん延防止等重点措置が発出され今に至っている。

コロナ禍で観光産業は宿泊業を中心に甚大な打撃を受け、観光業界団体から政府に対しGoToトラベルの早期再開と継続的な支援を要望しているが国内旅行・インバウンド共に感染拡大予防並びに医療崩壊を避けるため不要不急の外出自粛や水際対策の強化を打ち出しており、アフターコロナを見越してのGoTo事業1兆3千億の予算措置もその殆どが実行に移せないでいる。

一年延期となった東京オリンピック・パラリンピック2020をインバウンド回復の機会と期待されるも無観客での開催となり2021暦年の訪日外客数は激減し、結果はコロナ禍での前年の数値をも下回り訪日外客数公表開始（1964年）以来最低の24万5千9百人\*となった。一方、日本人の海外旅行者（アウトバウンド）数についても、前年比83.9%減の51万2千2百人\*となった。（\*出典 JNTO）

当協会としては新型コロナウイルス感染症が収まらないなか協会活動の在り方を再考し、これまでの国際観光振興に技術で貢献するという理念のもとCSV活動を通しての観光技術のプラットフォームに加えて、観光立国の核心であるホスピタリティについて次の3つの視点で整理した。

- ① 人とのホスピタリティを通して良品製造・購入の良循環の再生。
- ② 人と社会へのホスピタリティを通して共創関係を生みより良い社会環境の実現。
- ③ 人と自然へのホスピタリティを通して健全な生態系を取戻し住みやすい自然環境の実現。

その成果を国際ホテル・レストラン・ショー2022（会場：東京ビッグサイト）での協会特設ブースにおいて、総合テーマを「ホスピタリティで解く観光施設の未来～SDGsを踏まえて～」と題して技術者集団ならではの展示をおこない協会活動を広く社会に広報した。

このように、多様な観光交流空間を視野に入れた領域の調査・研究・提言、評価に事業の幅を広げ、観光関係の公益社団法人として観光交流空間のハード分野の側面を担いつつ、わが国の観光業の発展に努めている。

令和3年度はこのような内容をもとにして公益社団法人として主に下記の活動を行った。

### 1. 技術委員会・各分科会の事業活動については、

- (1) エコ達人村から続いているエコ・小活動もコロナ禍ではあったが、厨房の実証実験としてエネルギーを異にするハイブリッド調理器具の消費エネルギー、使い勝手等の計測数値化と食器洗浄の効率化を図る事を目的として、従来型と排熱回収型食器洗浄機での使用水量とエネルギー使用量を計測し、前洗いの有無による洗い上がり状態の比較およびドライヤーの仕上がり効果についてを検証した。
- (2) 新ユニバーサル客室研究として今年度は片引き戸の自動化にチャレンジし、試作品をホテルズ展2022の会場で展示した。

木づかいについては、オリンピック選手村のビレッジプラザに活用された木

材を解体後、提供された各地方に戻し、オリンピックレガシーとして再利用を推進しようという「ウッドリターン・プロジェクト」に共感し、協会員参加によるアイデアコンペを2021年末に開催し、選考委員により顕彰を行った。またこのアイデアを広く普及するためにアイデアコンペ報告書を発行し、全国の63地方自治体、他に配布し広報活動を行った。

2018年より無償ダウンロードが可能となった「ホテル・旅館のための安全の手引き」はその後、ホテル客室のTV画面に表示する要望も加わり、2020年のプリンスホテル東京ベイ潮見に続き、2022年にJR東日本ホテルメッツにも採用された。

(3) データ利活用による宿泊施設（ハードウェア）旅館・ホテルの付加価値増大について昨年の実証実験を基に観光型スマートシティを目指してスマートシティ研究会をスタートさせた。

(4) コロナ禍においてMICEの世界、サブスク型多拠点滞在についてWEBセミナーを開催。

(5) 日本の伝統的な空間の意匠と工法、またその使われ方を分科会全員で行くのを止めて個別に調査分析し日本の伝統工芸・文化を見つめ直し、新しい方向性に向けて研究をおこなった。

(6) ホテル・旅館の耐震性を確保するために、SDGsとBCPの観点から研究を行った。

2. 技術委員会の活動で得られた観光交流空間に関する情報を技術の見地から外部出版社の発行する情報誌に観光施設メディアラボと題して継続して連載した。

3. 広報委員会は、情報誌「観光施設」を年間4回発行、その内容の充実を図った。

ホームページの閲覧度を高めるべく、より効果的に情報伝達することに努め、広く観光界及び関連分野にむけて協会活動のPRを行った。

4. 事業委員会及び交流部会各部会においては、最新の観光施設に関連した内容をWebセミナーで会員ならびに一般に紹介した。

5. 委員会・分科会・部会活動の連携と調整を図るため、合同の会議：創造委員会を開催し、加えてフェーズフリーの考え方につき引き続き研究した。

6. 建築・設備・インテリアの3部会から成る「交流部会」を中心に、会員相互の情報交流をWebを活用して行った。

7. 第50回国際ホテル・レストラン・ショーについては、フード・ケータリングショーおよび厨房設備機器展と併せて3展合同開催を実施した。当協会としては、新たなテーマ『ホスピタリティで解く観光施設の未来～SDGsを踏まえて～』と銘打って9つのテーマ展示、①インテリア ②新UD客室研究 ③ホテル・旅館の耐震改修 ④エコ・小活動 ⑤観光施設のフェーズフリー ⑥LINKED CITY ⑦クロストーク ⑧木づかい活動 ⑨水辺観光、を映像中心に行うとともに協会ブース内で18枠のメインレクチャーとショートセミナーを行った。加えて特設会場でのホスピタリティデザインセミナーでは訪日外国人観光客を迎えるホテル・旅館のホスピタリティデザインに焦点を当て15枠の事例を取り上げて来場者の関心を集めた。

8. 総務委員会は、協会の活動内容を「協会だより」としてとりまとめ、会員に送付した。